

令和7年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

本校が、昨年度の半ばから始めた新たな教育活動の定着と質の向上を図っていることを評価する。千寿小生活スタンダード「5つのあ」の定着率は91%と高水準を達成しており、学校の指導によりスタンダードが児童の間に確実に浸透しつつあることが伺える。引き続き、本校の特色として特にあいさつを掲げ、あいさつがしっかりできる児童の育成に向けて尽力いただきたい。

4つの重点的な取組事項：「学力向上アクションプラン」「豊かな心の育成」「体力・運動能力の向上と健康の増進」「開かれた教育課程の実行」については、どれもバランスよく成果を上げている。「児童の生活・学習アンケート」や「保護者による学校評価アンケート」は総じて高く良好な数値を保持している。一方で、教職員の自己評価はどうなのか、気になるところである。地域も子どもも大切であるが、教職員も大切である。くれぐれもセルフ・ネグレクトにならぬよう留意されながら、授業の充実が落ち着いた学校づくりの基盤となることを意識して、児童にとって満足感がある授業の充実を図っていただきたい。

○【重点事項1：学力向上アクションプランについて】

学力は、どの学年も昨年度よりも向上している。これは、区調査の良好な通過率をものともせず、児童のつまずきに焦点をあて、弱点分野の補強を行うという地道な作業を実施してきた成果であると受け止めている。引き続き、放課後学習教室や個別指導の意味を教職員がしっかりと共通理解し、児童のICTリテラシー等を高めつつ、さらなる学力向上の取組を充実させていってほしい。

読書習慣の定着について、年間読書量を達成した児童の割合が第6学年で55%と他の学年に比べて低いのが気になっている。読書旬間における上級生から下級生へのマンツーマンの読み聞かせは上級生が学校全体をリードするよい機会になると思われる。引き続き数値向上を期してほしい。

○【重点事項2：豊かな心の育成について】

本校は、今年度異学年交流を大幅に充実させ、学級単位での全学年児童との交流の機会を増やすことができた。「5つのあ」により醸成された規範意識が異学年交流で具体的に発揮されることで、下級生を思いやる心や上級生を敬う心は各段に全児童の中に定着しつつあると考える。引き続き、児童の豊かな心の育成に向け、直接交流の充実を図っていただきたい。

○【重点事項3：体力・運動能力の向上と健康の増進について】

今年度から実施した体育朝会の取組は、全学年で外部講師を招き本物にふれる機会を意識的に増やしたことで得られる児童の学びに向かう姿勢や技術面の向上に新しい光を投げかけるものである。それは、児童に体を動かす楽しさを味わわせることにつながっている。引き続き、運動機会のさらなる確保と質の向上を目指し、児童一人一人のスポーツ志向を確実に高めていただきたい。

健康の増進については、むし歯の保有率が1.8%と大変低い値で、保護者ならびに児童本人の頑張りにより敬意を表したい。今後も、よりよい生活習慣の確立、さらにはその継続に向けて、家庭との連携・協働をさらに強化していただきたい。

○【重点事項4：開かれた教育課程の実行について】

校長ブログ及び学校ブログのこまめな更新は瞳目に値する。また、体育的行事の動画生配信等、新境地を切り開くことも怠らない。その校長を筆頭とする教職員の努力に深甚なる敬意を表する。引き続き、教育活動の可視化に努め、情報発信の充実にも努めていただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

教育活動の可視化について、保護者評価は9割とその満足度は高い。引き続き、地域の教育センターとしての役割を担い、児童の豊かな成長を育む教育活動を展開していただきたい。

3 その他

騒音問題の解決に向けた、区と連携した取組により、苦情の量・質に改善が見られているという。騒音問題は、地域の問題である。問題は学校だけに背負わせないよう、地域は学校をしっかりと支えてまいりたい。